

【別紙様式 I】 令和5年度 学校評価報告書

学校名 北小 学校

厚木市教育委員会の基本目標

- 1 自ら学び、鍛え、未来を拓き、夢や可能性に挑み続ける力の育成【挑戦】
- 2 自他の命や豊かな感性を大切にし、多様性を認めながら共に生きていく力の育成【共生】
- 3 変化する社会に自ら進んで関わり、人々と協働してより良い社会を創る力の育成【創造】

校長名 松下 幸司

学校教育目標

学校経営の方針

友愛 努力 感動
よくあそび よくまなび ともにかがやく

インクルーシブな学校の構築

共生社会の担い手を育むため、一人一人を大切にし、すべての児童が共に学び共に育つ学校

今年度の重点目標

- ・授業のユニバーサルデザイン化による学習意欲のさらなる向上
- ・SDGsの実現に向けた計画的な取組の基盤づくり(継続)

評価項目・指標等	基本目標との関連	具体的な取組	成果と課題	次年度への具体的な改善策
各教科の基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る。	1	・校内研究や「学力向上プロジェクトシート」で各学年の児童の実態を把握し、児童につけたい力を見極め、教材研究の充実に努めた。 ・学校独自に「九九検定」「漢字検定」「北っ子塾」を設定し、継続して取り組んだ。	・教材研究により、児童一人一人が「できた、わかった」と思うことができるような授業を展開することができた。また、児童が意欲的に検定に向けて努力する姿も見られた。 ・検定になかなか合格せず意欲を継続できなかったり、検定自体に意欲をもてなかったりする児童が一定数いた。	・業務を精選し、教職員の教材研究の時間をより確保することで、さらに児童の「できた、わかった」という実感につながるものとする。 ・児童の実態に応じた検定の実施や、家庭への協力依頼を継続する。
家庭学習の習慣化を図る。	1	・「ステップアップ家庭学習」という家庭向けの案内を配付し、家庭との連携を図った。自主学習の具体例を提示した。 ・各学年、毎週クロムブックを持ち帰り、学年の児童の実態に応じた家庭学習に取り組んだ。	・ほぼ全児童が毎日の家庭学習に取り組むことができた。保護者に家庭学習の確認サインをしていたことで、児童が意欲を継続することができた。 ・クロムブックを用いた学習とプリントによる学習を併用することが、児童の学習内容の理解を充実させることに効果的であった。 ・家庭学習への保護者のサインをなかなかもらえない児童が一定数いるため、保護者がわが子の学力を正確に把握していない可能性があることが懸念される。	・懇談会の参加人数が少なかったため、保護者への啓発が不十分だった部分もあった。次年度は、懇談会や教育相談、学年だより等の機会を利用して、家庭学習の習慣化が学力向上につながることを引き続き家庭に伝えていく。
いじめや問題行動を減少させるための取り組みを図る。	2	・児童アンケートをもとに全児童と個人面談を行い、教育相談で保護者と話し合った。	・児童の悩み事を早期に発見して対応することで、大きなトラブルを未然に防ぐことができた。学校評価保護者アンケートの「お子さんは、明るく楽しい学校生活を送っていますか。」の項目で、肯定的な回答が9割を超える結果となった。 ・解決が難しい問題については多くの職員で共有し、児童指導・支援担当・スクールカウンセラーにつなげ組織的に対応した。	放課後の児童の生活について、学校だよりや家庭教育学級などを活用して啓発し、家庭や地域と連携した取組を行う。

個々のニーズに応える支援教育の充実を図る。	2・3	・支援を必要とする児童に対し、通級指導教室、国際教室、菜の花ルーム、チャレンジルーム等で個別の支援を行った。 ・1年生には毎日、2年生には週1回程度、学習ボランティアを配置し、学習や生活支援を行った。 ・登校が難しい児童には、主に教頭と元気アップアシスタントが窓口となり担任と連携して状況把握と対応にあたった。	・個の課題に応じた指導をしたことにより、児童が自信をもって学習や生活に臨む姿が見られた。また、複数の教師が関わることで、担任だけでは気付かなかった児童の様子を知ることができ、次の指導に生かすことができた。 ・登校が難しい児童については、電話連絡をしたり家庭訪問をしたりして原因を探り、それに基づいてできるだけ環境を整えているが、なかなか登校につながらない場合があった。	・支援を必要とする児童が多く、十分に支援の手が行き届かない現状があると考えられる。教職員・保護者・児童からさらなる支援を求める声が聞かれるが、対応する職員やボランティアを増やすことができない現状がある。業務を精選し、対応にあたる時間を捻出できるよう考えていきたい。
地域の特色を生かした学習や、保護者や地域との交流を積極的に進める。	3	・1年生が、地域の方が準備してくださったサクラソウを植えて育てたり、地域の方が講師となって昔遊び体験をしたりした。 ・2年生と3年生が、生活科や総合的な学習の時間で、地域の方の協力のもと地域を調べる活動を行った。 ・10月の「北っ子塾」で、地域の方と一緒に「厚木かるた」を楽しんだ。 ・3～6年生の書き初め大会では、練習時から地域の方に毛筆講師として指導に協力していただいた。	・地域の方々とのふれあいを通して、地域みなさんに見守られて自分は生活しているということに気づき、地域に対して愛着をもつことができた。また、地域の人々の思いや努力に気付いたり地域に生きる自分について考えたりすることもできた。	・各教科で時数の確保が難しい中、教科の時数の中でどのように地域に目を向けられるか教材研究をしたり、確実に単元指導計画と協力していただける人材を引き継ぐことが必要であると考えている。
今年度の学校関係者評価委員会からの意見				
○放課後の交通安全の指導が不足しているのではないかな。○地域の見守り隊をもっとふやすことはできないか。○登下校・放課後の過ごし方など家庭での指導がもう少し必要ではないか。という声があがった。				
今年度の学校経営のまとめ ・ 次年度への改善の方針				
人手が少ない中『インクルーシブな学校の構築』を目指してきたことで、支援を必要とする児童を発見し、組織的に対応する環境を作ることができた。来年度はまず基礎学力の定着をさせるために教師が教え方を磨く。教材研究の時間を確保できるようにしていきたい。また、学校外での交通事故が複数あったため、自他の命をみんなで守る、児童の安全意識の向上に力を入れていきたい。				